

# 社会科学における 研究データ公開の現状と課題

三輪 哲

(東京大学社会科学研究所)

2018年10月



社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点

東京大学 社会科学研究所

附属社会調査・データアーカイブ研究センター



# 社会科学における研究データ

## ■ 社会科学 Social Sciences

- 社会のなかでの人間行動や社会現象を対象とする科学の総称

- 法学, 政治学, 経済学, 社会学 など...

## ■ 研究データは、主に社会調査により収集

- 定性的データ

- インタビュー, フィールドワーク, 文書記録 など...

- 定量的データ

- 行政管理データ, 集計データ, 個票データ など...

# 定量的な社会調査(質問紙調査)

## ■ 何を聞くか？

### 質問紙への回答

最後に、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについて伺います。  
F1 (性別)

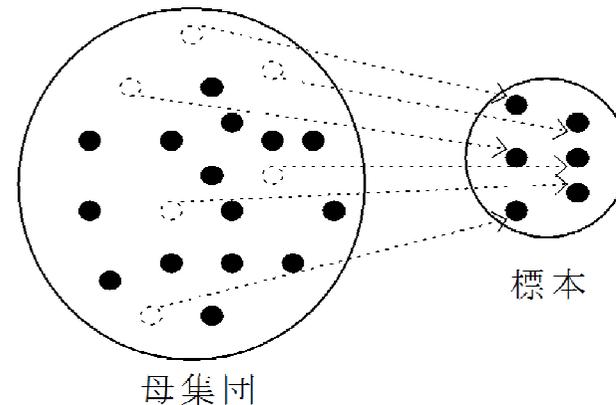
男性		女性			
F2 [年齢] あなたのお年は満でいくつですか。					
<input type="radio"/>	20~24歳	<input type="radio"/>	40~44歳	<input type="radio"/>	60~64歳
<input type="radio"/>	25~29歳	<input type="radio"/>	45~49歳	<input type="radio"/>	65~69歳
<input type="radio"/>	30~34歳	<input type="radio"/>	50~54歳	<input type="radio"/>	70歳以上
<input type="radio"/>	35~39歳	<input type="radio"/>	55~59歳		

F3 [本人職業] あなたのご職業は何ですか。  
職業の内容を具体的に記入してから、下の該当する項目に○をつける。

自営業主			家族従業員			雇用者				無職		
農	商	自	農	商	自	管	専	事	労	主	学	その
林	工	由	林	工	由	理	門	務	務		生	他の
漁	サ		漁	サ		職	技	職	職			無職
業	ー		業	ー			術					
	ビ			ビ			職					
	ス			ス								
	業			業								

## ■ 誰に聞くか？

母集団と、無作為抽出による標本



## ■ どのように聞くか？

訪問面接法, 郵送法,  
電話法, ウェブ調査

# 定量的な社会調査（質問紙調査）

## ■ 質問紙調査の結果、個票データが収集

	area	idp	totyaku	q01s	q01n	q01a	q02	q0301	q0302	q0303	q0304	q0305	q0306	q0307	q0308	q0309	q0310
1	1	1	207	2	16	61	3	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0
2	1	3	204	2	57	20	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	1	4	212	2	57	20	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0
4	1	5	206	1	31	46	3	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0
5	1	7	205	2	19	59	2	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0
6	1	11	203	2	37	40	3	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
7	1	15	212	1	52	25	3	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
8	1	21	203	2	22	55	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
9	1	22	224	1	22	55	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
10	1	24	218	1	52	25	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
11	1	28	210	1	57	20	3	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
12	1	30	205	2	40	38	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
13	1	32	203	2	27	50	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
14	1	34	203	2	40	38	3	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0
15	1	35	212	1	23	54	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
16	1	36	203	1	51	26	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
17	1	40	203	2	42	36	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
18	2	1	207	2	18	59	3	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0
19	2	2	204	2	47	30	3	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0
20	2	3	204	2	17	60	2	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0
21	2	4	203	1	22	55	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
22	2	5	217	2	23	54	3	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0
23	2	6	205	1	40	38	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
24	2	7	210	1	31	47	3	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0
25	2	8	227	2	19	58	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
26	2	9	328	2	19	58	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	2	10	206	2	24	53	3	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0
28	2	11	210	2	16	61	3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
29	2	13	204	1	23	55	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
30	2	14	205	2	29	48	3	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0
31	2	15	214	2	29	48	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

# 社会科学データアーカイブのしくみ

## データ寄託



申請内容の審査とデータ提供

# SSJデータアーカイブの事業

- (1) 調査データの寄託
- (2) データの確認と秘匿処理
- (3) メタデータ(≒調査概要)の作成
- (4) データの公開・提供
  - SSJDA Directを通じたダウンロード方式
  - or 郵送による受け渡し方式
  - Nesstar(リモート集計システム)
- (5) 研究成果のアナウンス

概要

調査番号	0955
調査名	第49回大学生生活実態調査, 2013
寄託者	全国大学生生活協同組合連合会
利用申込先・承認手続き	利用方法の詳細は <a href="#">こちら</a> 寄託者が利用申請を承認したときに利用できる
教育目的(授業など)の利用	研究のみ
利用期限	一年間
データ提供方法	ダウンロード
メタデータ閲覧・オンライン分析システムNesstar	利用不可
調査の概要	<p>「学生の消費生活に関する実態調査」は、大学生の生活、主に経済的な側面と大学生の意識や行動を明らかにし、結果を生協の諸活動や事業に反映させることによって、大学生の生活をより充実したものとする目的で、1963年から毎年10月に実施されている。2013年に実施された本調査は49回目にあたる。</p> <p>今回の調査では、生活費や消費行動に関する質問などの従来より設定している調査項目に加えて、国内外の政治に関する関心の大きさや、現在の日本の安全さ、住みやすさへの評価の調査も行っている。</p> <p>2013年の調査では下宿生の仕送りが7年ぶりに前年比増となった。また、学生の旅行やレジャーへの関心の高まりによりアルバイト収入も増加し、景気や就職状況の回復を背景として、学生の経済生活にも変化の兆しが表れたかのように見える。しかしその金額はリーマンショック以前のものを下回っており、多くの学生が就職活動や将来のために貯金をしながら、引き続き内定獲得への不安を抱えていることも明らかになった。</p>
調査対象	4年制の国公立・私立大学の学部学生
調査対象の単位	個人
サンプルサイズ	回収数8,930名(回収率 28.8%) ※報告書の集計・分析は、経年での変化をより正確にするために、毎年指定している30大学生協で回収した8,930ケースを対象として行っている(利用上の注意も参照)。
調査時点	2013年10～11月
調査地域	全国
標本抽出	ランダムサンプリング(サンブラーの抽出は各生協で学生名簿などから実施)
調査方法	郵送留め置き法。各生協で調査票を郵送(一部手渡し)して回収。
調査実施者	全国大学生生活協同組合連合会

# SSJDA Directとは

- Webでデータの検索, 利用申請, ダウンロード等ができるシステム
- 利用資格は、大学・公的研究機関の研究者(院生含む)、寄託者  
学術目的のみ

English

東京大学社会科学研究所  
 附属社会調査・データアーカイブ研究センター

森しづみさん

マイページ

利用者情報変更 | パスワード変更 | 利用申請 | 成果物登録 | ログアウト | ご利用マニュアル

承認待ち件数 : 0件

\* 詳細ボタンをクリックすると、利用申請情報詳細へ遷移します  
 \* 利用報告は利用申請情報詳細からお申し込みいただけます  
 \* 教育目的でご利用の場合、データの利用期限は1年間になります  
 \* 「学生」の方の利用期限は申請が承認された年度の3/31になります。

<<< 1 >>> 全9件

申請番号	申請日	目的	調査名	ステータス	利用報告期限	
9475	2015/12/01	研究	Global Career Survey, 2012	貸出中	2016/12/09	詳細
6500	2015/02/25	研究	放課後の生活時間調査, 2008	貸出中	2016/02/26	詳細
5051	2014/07/24	研究	日本版General Social Surveys <JGSS-2010>	期限なし		詳細
5050	2014/07/24	研究	日本版General Social Surveys <JGSS-2000>	期限なし		詳細
4150	2014/04/25	研究	日本版General Social Surveys <JGSS-2008>	未ダウンロード		詳細
3951	2014/03/19	研究	1995年SSM調査, 1995	完了	2015/03/20	詳細
3950	2014/03/18	研究	2005年SSM日本調査, 2005	完了	2015/03/18	詳細
3949	2014/03/18	研究	放課後の生活時間調査, 2008	完了	2015/03/25	詳細
2591	2013/03/08	研究	日本版General Social Surveys <JGSS-2008>	期限なし		詳細

\*ステータスが「返信封筒未到着」となっている件については、データを郵送しますので、データ送付用の返信封筒を至急SSJDAまでお送りください。 <<< 1 >>> 全9件

\* 詳細ボタンをクリックすると、成果物詳細へ遷移します

<<< 1 >>> 全1件

成果物番号	登録日	著者名	種別	タイトル	
490	2015/02/18	森しづみ	書籍	教育 なぜ大学に進学する人とならない人があるのか——文化資本	詳細

<<< 1 >>> 全1件

# Nesstarとは

- データ特性に関する情報閲覧と簡単な統計分析ができるシステム
- 利用資格は特に制限されない、ただし利用目的は学術目的のみ



The screenshot displays the Nesstar web interface. On the left, a tree view shows the dataset structure, including 'SSJDNesstar', '東大社研パネル調査', and '日本版General Social Surveys (JGSS: Japanese General Social Surveys)'. The 'Variable Description' section is expanded, showing a list of variables such as '面接票', '留置A票', '生活習慣', '団体への所属', '情報機器の利用', '環境問題', '人間観・信頼観', '死生観・信仰・宗教活動・墓についての意識', '家族・ジェンダー', and '社会階層'. A context menu is open over the '世帯収入のレベル' variable, with options: 'Add to row', 'Add to column', 'Use as filter', and '自分の年齢'.

The main content area shows the 'Dataset: 日本版General Social Surveys <JGSS-2010>' with tabs for 'DESCRIPTION', 'TABULATION', and 'ANALYSIS'. The 'TABULATION' tab is active, displaying a table with the following data:

幸福度	1:幸せ	2	3	4	5:不幸せ	無回答	Total	N=
世帯収入のレベル								
平均よりかなり少ない	18.9	20.3	38.1	16.4	4.2	2.1	100.0	286
平均より少ない	23.7	32.5	36.3	5.8	0.5	1.1	100.0	788
ほぼ平均	36.8	37.0	22.9	2.2	0.4	0.7	100.0	1,079
平均より多い	40.8	40.2	15.4	2.0	0.3	1.3	100.0	306
平均よりかなり多い	52.4	14.3	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	21
無回答	40.7	7.4	44.4	0.0	3.7	3.7	100.0	27
Total	31.3	33.5	28.2	4.9	0.9	1.1	100.0	2,507

# データアーカイブの役割と意義

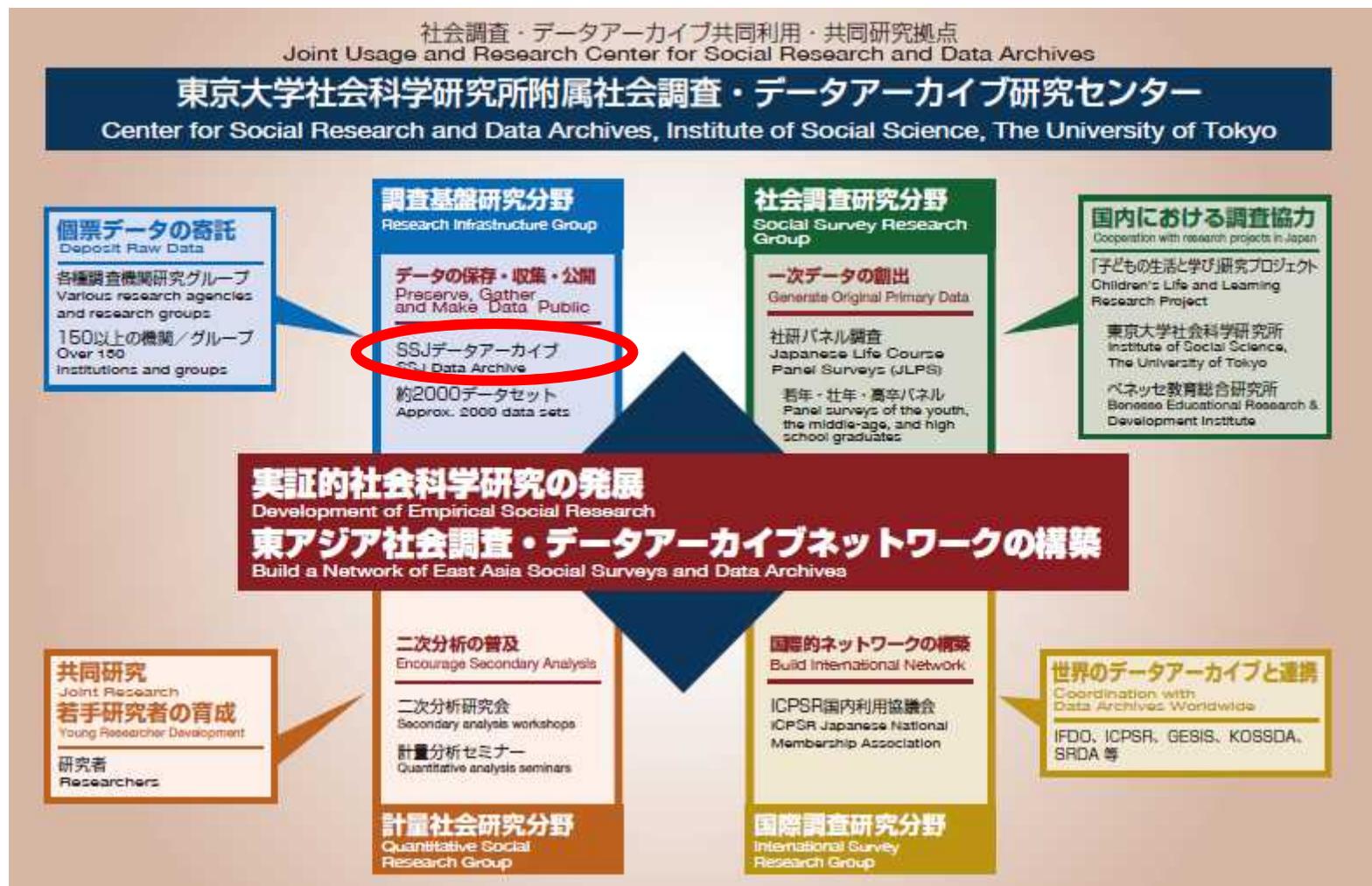
- データの喪失を防ぎ，長期保存が可能に
- 個人情報秘匿処理により安全に保管
- データキュレーションによりデータの質の維持
- 分析の再現性を担保
- 二次分析により，多くの新しい研究が可能に
- 今後実施される社会調査の質の維持・向上

# SSJDAの業務統計(年度別)

SSJDAの運営状況

年度	新規公開 データセット数 ( )内は調査数	収録調査 DB検索件数	公開データリスト ・アクセス件数	利用申請 件数	利用申請 研究者数	提供 データセット 数	発表論文 ・著書数	うち 学位 論文数
1998	276(220)	—	—	11	14	22	3	1(1)
1999	91(60)	—	—	20	33	72	4	3(0)
2000	42(32)	—	—	51	74	147	3	0(0)
2001	50(22)	—	—	114	278	545	19	3(0)
2002	40(28)	4,581	—	222	489	796	37	2(1)
2003	77(58)	31,014	—	224	613	1,129	25	6(1)
2004	101(76)	40,583	—	343	802	1,735	56	12(2)
2005	95(65)	38,770	—	335	1,036	2,527	91	18(1)
2006	185(78)	43,011	—	366	944	1,641	61	19(2)
2007	208(94)	53,986	—	463	1,208	1,851	86	15(0)
2008	56(39)	43,613	5,406	481	1,434	2,165	113	30(2)
2009	66(62)	40,943	10,255	606	1,756	2,784	116	45(2)
2010	61(51)	41,425	15,425	666	1,354	1,630	135	28(2)
2011	70(50)	40,984	16,190	774	2,093	1,812	169	50(3)
2012	74(66)	40,738	16,691	855	2,567	2,352	145	74(1)
2013	94(61)	44,553	19,368	892	2,129	2,754	154	80(2)
2014	96(55)	68,027	27,799	976	2,867	5,921	220	108(2)
2015	253(89)	76,889	37,198	1,263	3,216	5,846	266	150(0)
2016	83(61)	140,206	35,637	1,088	4,013	6,972	191	128(0)
2017	70(61)	243,924	47,468	1,080	4,276	7,000	257	165(0)

# 東京大学社会科学研究所 附属 社会調査・データアーカイブ研究センター



# 社会調査・データアーカイブ研究センターのデータ活用促進事業

優秀論文と寄託者表彰



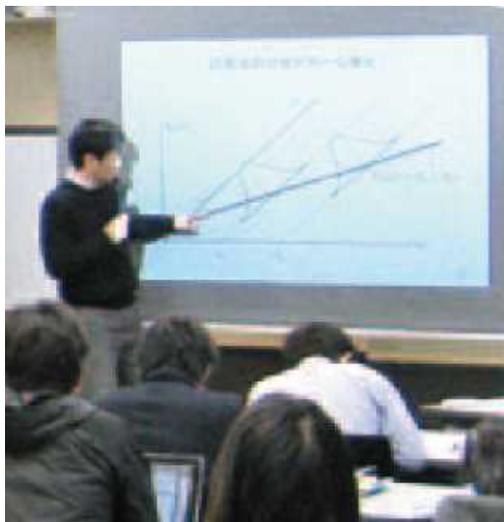
東大社研パネル調査



メタデータ国際規格DDI  
エディタの開発



計量分析セミナー



二次分析研究会



# 研究データをとりにまく日本の状況

- ①データアーカイブ: 社会科学分野の多様なデータを**収集、整理、保存、提供**

東大社研SSJDA, 立教大学RUDA, (札幌学院大SORD), など

- ②特定分野のデータを整理し提供

レヴィアサン・データバンク、(兵庫教育大学JEDI), など

- ③自機関の調査を第3者に提供

慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター、JILPTデータアーカイブ, など

- ④公的統計の匿名データの作成・提供、オーダーメイド集計

独立行政法人統計センターの統計データアーカイブ(学術研究機関向けの窓口(サテライト機関)), 一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター, など

# 研究データをとりにまく海外の状況

- 米国の主要な社会科学データアーカイブ
  - Roper Center, ICPSR, Dataverse
- 欧州の主要な社会科学データアーカイブ
  - GESIS(ドイツ), UKDA(イギリス), DANS(オランダ)
- 東アジアの主要な社会科学データアーカイブ
  - SRDA(台湾), KOSSDA(韓国)
- データアーカイブ間の連携組織
  - CESSDA(Council of European Social Science Data Archive), IFDO(International Federation of Data Organisations for the Social Sciences)
  - 日本(SSJDA)はIFDOのBoard Member
  - 東アジアでもアーカイブ間連携組織を構想中

# 学協会における取り組み

- 日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築プログラム」
  - 国際的な立ち遅れ、データ公開・共有が進まぬ現状、データベース間連携の不在、などが問題意識
  - 中核機関(日本学術振興会)は、データ利活用システムを構築
    - データ所在把握, データカタログ設計, ガイドライン検討
  - 各拠点(研究機関)は、データ共有基盤を構築
    - データ収集・アーカイブ化, 多言語化, 連結化 etc...
- 社会科学全体としての取り組みはこれから

# 社会科学分野における課題

- 研究データの公開/共有の促進
  - データは公共財ではないのか
  - 公開されないデータを用いた研究は認められるか
- 研究データ間の連結の必要性
  - 比較可能性を確保するために
- 研究データの国際化(多言語対応)
  - 海外研究者の利用, 国際比較分析
- 共通ガイドラインや指針の作成と普及
- こうした事業を支える人材の育成と確保